多賀城廃寺（多賀城市）

多賀城廃寺は東北歴史博物館の東側に所在する

ここは東側の入口/さまざまな説明板が立っている

標柱には「特別史跡　多賀城跡附寺跡」とある

仏教の力で東北地方の安定を図るため建てられた多賀城跡の付属寺院で、多賀城跡と同時に創建された

特別史跡
多賀城跡附寺跡

大正十一年十月十二日 史跡指定
昭和四十年四月十七日 追加指定
〃 四十一年四月十一日 特別史跡指定
四十九年二月十八日 追加指定
〃 五十三年十月二十一日 〃
〃 五十五年三月二十四日 〃
〃 五十九年三月二十日 〃

多賀城は、奈良時代に陸奥国の国府として造営され、それ以後 中世まで国府が置かれた遺跡である。多賀城の名が文献にはじめて登場するのは「続日本紀」の宝亀十一年(七八〇年)の記事であるが、天平九年(七三七年)の記事には「多賀柵」の名がみえる。

また、奈良時代のはじめのころ「鎮所」「陸奥鎮所」の名がたびたび史料に登場していることなどから、多賀城は奈良時代には国府とともに鎮守府も置かれ、政治的、軍事的中心地となっていたものと思われる。多賀城は、延暦二十一年(八〇二年 鎮守府が胆沢城(岩手県水沢市)の造営によって移されてから後も陸奥国府として、また十世紀の前九年、後三年の奥州の乱においては、源頼義、義家の治所、文治五年(一一八九年 の源頼朝の奥州藤原氏討伐の際の滞在所、さらには南北朝の際の義良親王、北畠顕家の治所等として、史上にその名をとどめている。

多賀城廃寺跡は、多賀城跡の南東約一Kmの大字高崎の低い丘陵上にある。この寺院については、古代の文献には何ら記録されていないが、大正十年の史跡指定にあたって、これを多賀城の付属寺院であるとみなし、多賀城跡に附指定されたものである。

発掘調査は、昭和三十六、三十七年に実施され、主要伽藍が明らかになった。伽藍は東に塔、西に東向きの金堂があり、両者の前方中央には門があり、中央後方には講堂がある。門(中門)の左右からは築地が延び、塔、金堂を囲んで講堂の左右にとりついている。講堂の後方には、大房と小子房からなる僧房があり、大房の東西には倉も見つかっている。また、講堂近くの東西には鐘楼、経蔵が推定されている。さらに西側築地の西にも仏堂と思われる建物や築地南西隅の南西方向にも方形の建物が発見されている。講堂や僧房の調査では礎石を持つ建物の下から掘立柱建物が発見され、小子房は創建以来掘立柱の建物であることなどから、これらは、掘立柱建物から礎石を使用する建物に改修されたものと思われる。

この廃寺跡からは、多賀城跡と同じ創建瓦や九世紀後半の瓦と同笵のものも出土し、十世紀中頃の土器もみつかっていることから、この寺院は、多賀城とほぼ同時に建立され、多賀城と同じような変遷をたどったものと思われる。

昭和四十一～四十三年度に遺構を保護し、また広く一般の人々に、利用してもらうために、総計三千三百三万円で環境整備事業を行なった。

昭和四十四年三月　　文化庁
宮城県
多賀城市

昭和六十年八月書替　　多賀城市教育委員会

講堂を正面とし、東側に三重の塔、西側に金堂を配置し、築地塀で囲んでいた/このような配置は、多賀城跡の前身である仙台市郡山遺跡の付属寺院である郡山廃寺や、大宰府の付属寺院である観世音寺と似ていると云う/更に、北外側には僧坊や子房、経楼や倉庫があった

こちらは西側の入口/ここにもさまざまな説明板が立っていた

史蹟多賀城址附寺址

特別史跡　多賀城廃寺跡

多賀城廃寺は、奈良時代（千二百数十年前）に陸奥国府と鎮守府がおかれた、多賀城の附属寺院として建立されたもので、国家の安定と、東北地方の順調な経営を願ったといわれてる。

建物の配置は、東に三重塔、西に金堂がでいに向い合い、中央部南には門があり、中央部北には、講堂ある。また南の門の左右から築地がつづいられ、塔金堂を囲んで北の講堂の左右に取り付いている。

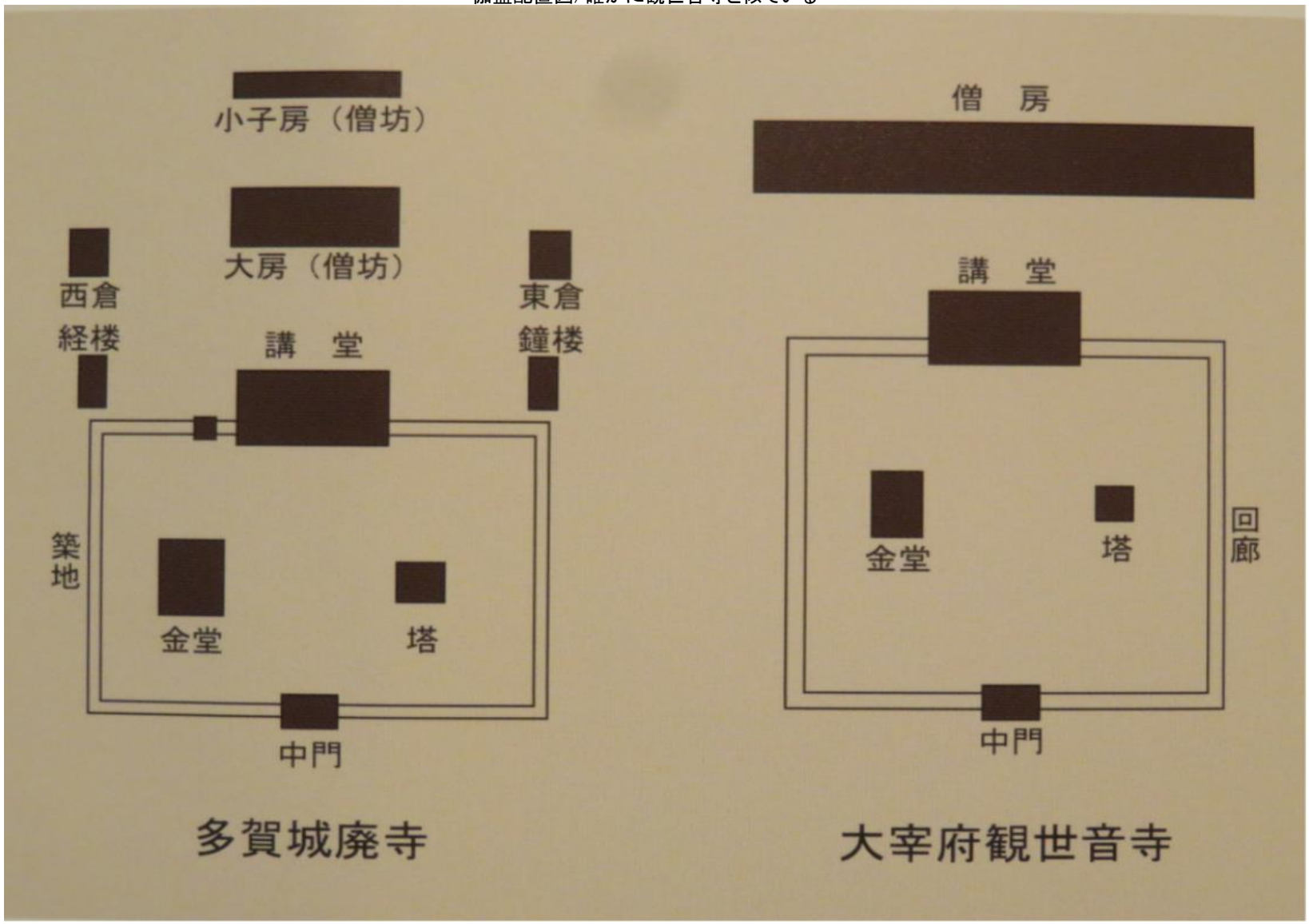
このような伽藍配置は、福岡県大宰府の観世音寺とよく似た建物である。

昭和四十一年四月、多賀城跡とともに国の特別史跡に指定されている。

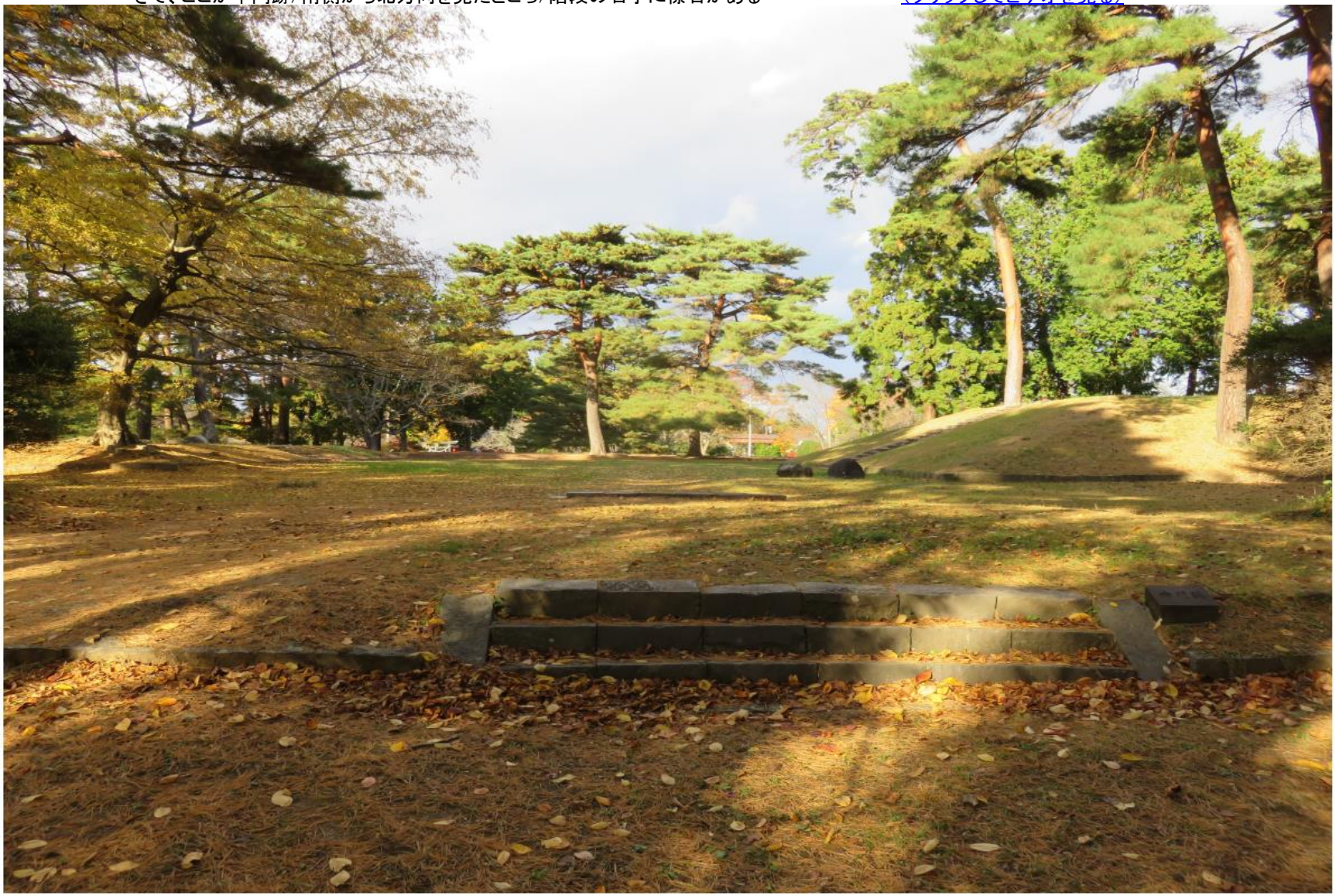
多賀城廃寺復元模型

多賀城廃寺復元模型 (東北歴史博物館提供)

伽藍配置図/確かに観世音寺と似ている



さて、ここが中門跡/南側から北方向を見たところ/階段の右手に標石がある　（クリックしてビデオを見る）



中門跡

正面前方が講堂跡、左手は金堂跡、右手は三重塔跡

（クリックしてビデオを見る）

そこから、左手の金堂跡を見たところ

同じく、塔跡を見たところ

これは金堂跡を北東側から見たところ

金堂跡

近づいて見たところ/礎石が置かれている

北西側から見たところ

西側から見たところ/前方は塔跡

金堂跡、塔跡の調査状況の説明板

これは塔跡を西側から見たところ

北西側から見たところ

礎石が置かれている/中央は心礎石のようだ/南東側から見たところ　（クリックしてビデオを見る）

これが心礎石

そこから見た金堂跡

正面は講堂跡/南側から見たところ

（クリックしてビデオを見る）

基壇へ上がる階段の右手に標石がある

講堂跡

北東側から見たところ

やはり、礎石が置かれている/北西側から見たところ

西側から見たところ/この前方に鐘楼跡がある　（クリックしてビデオを見る）

ここが鐘楼跡/西側から見たところ

鐘樓跡

北西側から見たところ

こちらは経楼跡/東側から見たところ

標石には「経蔵跡」とある

北西側から見たところ　（クリックしてビデオを見る）

これは僧房跡/南東側から見たところ

僧房跡

南西側から見たところ/僧房は大房（手前）と小子房（奥）から構成されていたようだ

西側から見たところ

これは東倉跡/西側から見たところ

東倉跡

南西側から見たところ

こちらは西倉跡/東側から見たところ　（クリックしてビデオを見る）

西倉跡

北東側から見たところ

政宗が育んだ“伊達”な文化　The "DATE Culture" Fostered by Masamune

多賀城跡附寺跡（国特別史跡）

Site of Temple Belonging to Tagajo Castle

奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれたところで、奈良時代には鎮守府（ちんじゅふ）も併せ置かれていた古代東北の政治・軍事・文化の拠点です。平安時代、都の貴族たちはこの地を「みちのく」の名であこがれ、多くの歌を詠んできました。江戸時代に多賀城碑が発見され、古代にまでさかのぼる遺跡であることが分かると、仙台藩の儒学者佐久間洞巌（どうがん）や地元の人々などによって調査研究され、保護されてきました。

Being the site of the local branch office of the nation since the ancient times, this location was the base of politics, military and culture in the Tohoku region. The nobles in the capital used to hanker for this place, calling it by the name of "Michinoku" and composing many poems about it. Tagajo Castle Monument was discovered in the Edo period, and it revealed that the remains dated back to the ancient times. Thereafter, scholars of the Sendai domain and other local people conducted investigations and research, and made efforts for its protection.

明治時代に描かれた絵図（『多賀城古趾の図』）

多賀城廃寺跡

平成28年度
日本遺産認定

政宗が育んだ“伊達”な文化

日本遺産

仙台藩を築いた伊達政宗については、戦国大名として政治・軍事面での活躍は広く知られているところですが、その一方で時代を代表する文化人でもありました。上方に負けない気概で自らの“都”仙台を創りあげようと、政宗は古代以来東北の地に根づいてきた文化の再興・再生を目指しました。伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛、政宗の個性ともいうべき意表を突く粋な斬新さ、さらには海外の文化に触発された国際性、といった時代の息吹を汲み取りながら、新しい“伊達”な文化を仙台の地に華開かせていったのです。

そして、その文化は政宗だけに留まらず、時代を重ねるにつれ、後の藩主に、さらには仙台から全国へ、武士から庶民にまで、さまざまな方面へ広がり、定着し、熟成されていきました。

スマートフォンで解説をご覧頂けます。
（日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語・タイ語）

Commentary accessible through your smartphone.
Available in Japanese, English, Simplified and Traditional Chinese, Korean and Thai.

特別史跡　多賀城跡附寺跡

多賀城跡は、この附近の丘陵一帯の市川、浮島両地区にかけて所在しています。仙台平野の北端に位置しており、南に大平洋を望むことができます。東には国府の港と推定される塩竈の港をひかえるなど、古くから交通の要衝でした。

今からおよそ千三〇〇年前、奈良時代前半に陸奥国の国府として創建された多賀城は、鎮守府としての役割も果していました。多賀城は、周囲が塀（おもに築地土塀）をめぐらし、その痕跡は現在でも土手状の高まりとして残っています。多賀城の平面形は、不整方形をなし、広さはほぼ方八町に相当します。そのほぼ中央部に重要な政務や儀式が行われた政庁があります。

多賀城跡は、大正十一年十月に多賀城廃寺とともに国の史跡に指定されました。さらに、昭和三十年代に実施された発掘調査の成果により、日本の歴史を理解する上で学術上の価値が特に高く、貴重な遺跡として昭和四十一年四月、国の特別史跡に指定されております。その後も、多賀城跡と多賀城廃寺は、国司館など数回の追加指定が行われ、現在特別史跡の指定面積は約一〇七万六千平方メートルに及びます。

多賀城跡を末永く大切に保護するため、多賀城市では、指定地域の買上げを年次計画によって実施するとともに、特別史跡の維持管理を行っています。さらに、宮城県では、宮城県多賀城跡調査研究所を設置し、学術的調査を行い史跡公園として環境整備を継続的に実施しています。

多賀城市では、今後も我が国の歴史にとって欠くことのできない、国民の財産であるこの史跡を積極的に保存し、活用を図る所存であります。

平成十年三月

多賀城市教育委員会

参考ホームページ

https://www.thm.pref.miyagi.jp/kenkyusyo/index.html

https://hb2.seikyou.ne.jp/home/fm/taga-haiji.html

https://www.miyatabi.net/miya/tagajyou/tera.html

http://www.uraken.net/museum/castle/shiro13.html

https://blog.goo.ne.jp/hi-sann_001/e/4a6592d55b88cb6dd90fca46ec1051ec

https://ameblo.jp/shinji920/entry-12447559697.html

塩釜
坂総合病院
下馬
259
35
45
多賀城東幼稚園
多賀城IC
国府多賀城
多賀城市総合体育館
多賀城市立高崎中
多賀城市立多賀城小
高崎幼稚園
E6
多賀城市
中央
仙塩総合病院
多賀城
るかぜ保育園